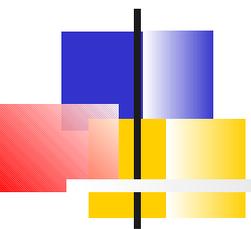


ナノウォーターディグリーザー による椅子の洗浄方法



【従来の問題点】

- 
- ①従来のマシンとケミカルの使用による作業方法では労力をはじめとするコストがかかり過ぎて採算性が悪い
 - ②従来のケミカルでは、残留による再汚染を誘発させる
 - ③従来の作業方法では、現場での作業ができず持ち帰っての作業となる



『洗淨前』

数年来の汚れが蓄積されています。



ナノウォーターディグリーザーをスプレー噴霧します。汚れ部分に十分噴霧します。



噴霧後スプーンによって汚れとナノウォーターを馴染ませます。(ヘラやブラシではなくスプーンが最適です)また、繊維の毛羽立ち防止のためスプーンの底部を使用します。



スプーンは一方向からではなく、縦横両方から動かし、十分馴染ませることが大切です。



マイクロファイバークロスで拭き取ります。タオルではなく繊維に入り込むマイクロファイバーが最適です。



ナノウォーターとスプーン・マイクロファイバーを使用することで汚れをしっかりと除去することができます。



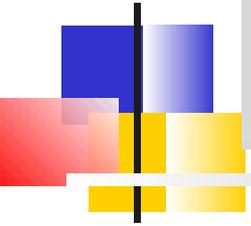
『拭き取り直後』

リンス作業が不要なうえ、乾燥も早く表面もサラサラです。

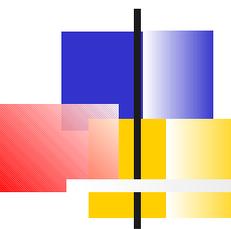


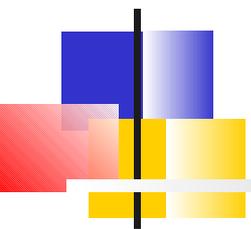
『乾燥後』

向かって右半分が洗淨した部分。汚れを除去したことで左半分と比べ色合いが鮮やかになりました。



【ナノウォーターによる改善点】

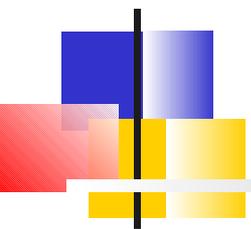
- 
- ①作業にマシンが不要なうえ、短時間で作業が完了し採算性が良い
 - ②無残留のため再汚染の心配がない
 - ③手軽な作業のため現場での作業が可能
 - ④斎場や式場、オフィスなどオーナー様側からのニーズはあるためBM様にとっては新たな収益源として期待できる



ナノウォーターディグリーザー によるカーペットのシミ取り方法



【従来の問題点】

- 
- ①作業に経験や技術を必要とし作業者により仕上がりに差が出る
 - ②残留洗剤により再汚染を誘発させる
 - ③残留洗剤を除去するため複数回のリンス作業が必要となる
 - ④複数回のリンス作業により労務費と汚水が増加
 - ⑤労力に対して汚れが取りきれずオーナー様の顧客満足度の低下が懸念される



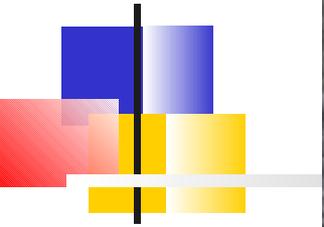
『洗淨前』
シミはコーヒーです。



スプレーで多めに**直射**します。噴霧ではなく直射にすることで繊維の奥まで浸透し汚れと結合します。



噴霧後スプーンによって汚れとナノウォーターを馴染ませます。(ヘラやブラシではなくスプーンが最適です)また、カーペットの毛羽立ち防止のためスプーンの底部を使用します。



スプーンは一方向からではなく、縦横両方から動かし、十分馴染ませることが大切です。



タオル等を当て、全体重のかかるかかたで踏んで染み上げます。



分解されたシミをタオル等に付着させて汚水を回収して作業完了。(残留洗剤の心配は不要です)



『洗淨直後』

乾燥が早く表面もサラサラです。



『乾燥後』

【ナノウォーターによる改善点】

- ①誰でも取扱説明書を見れば簡単に作業ができる
- ②残留洗剤がないため再汚染の心配がない
- ③界面活性剤が未使用
- ④リンス作業の大幅削減が可能
- ⑤作業行程の簡略化による労務費・汚水の削減が可能
- ⑥しっかりとシミを除去することができ、オーナー様の顧客満足度の向上が期待できる